



財政難の中で見えてきた予算編成の課題

役場新庁舎建設をはじめ、道路や橋などの大きな公共事業が終了したため、町の平成26年度の予算は縮小の傾向にあります。一般会計の歳入額約74億円のうち町税は約9億3千万円。差額の65億円は、国の地方交付税、東京都の支出金、国庫支出金、使用料や手数料、基金の取り崩し、町債(町の借金)などで埋められます。国の財政が厳しい中、今後も潤沢な財源が確保されるとはとても考えられません。これからの時代は、限られた財源のなかでいかに支出を削減するかが問われていて、3月議会ではとくに歳出削減を求める意見が多く出されました。

各種団体補助金の見直し 八丈町では82の団体に毎年約7億円が補助金として出されています。それぞれ補助金なくては成り立たない事業ではありますが、やはり全般的に見直しが必要です。観光費では、観光振興実行委員会が廃止され町が直轄で運営することになった以上、各イベントについての査定を厳密にし、観光客の人数や経費を把握した上で、詳細な領収書を提出させるべきだと複数の議員が指摘しました。以前一律に1割削減が実施され、その後いくつかの補助金をカットすることも提案されましたが、今は現状を維持している状態です。

病院事業に求められる治療費の削減、健康対策 補助金の中で最も金額が多いのが町立病院で3億5千万円にのぼります。経営は依然として厳しく、その原因として、入院室の利用率が50%と低いことや、治療費が上昇していることが指摘されました。治療費を減らすための健康保持対策や、療養病床の導入による病室の有効利用など、経営改善のための一層の努力を求めました。

多目的ホールの技術者養成 音響、照明などの舞台技術管理者の養成に毎年600万円かけることに疑問が相次ぎました。私も、島外の技術者をその都度呼ぶより町職員が研修を重ねて自前で管理できる仕組みを作るべきと訴えました。

委託事業の精査 町が委託している事業の見直しについては、たとえば利用頻度の低いポータルサイト(町の検索サイト)の廃止や庁舎管理の委託料の削減の要望が出たほか、町が独自に専門の担当職員を育成するよう求めました。

公共施設の解体費用 役場旧庁舎の解体には1億円以上かかると言われます。また、国から買い上げたロン局の宿舍(三根)や旧NTT宿舍の解体にも多額の費用がかかります。その財源を単年度で確保することは難しいので、計画的に少しずつ積み立てて解体費用を捻出するようにとのベテラン議員の意見は、私も大事な指摘だと思いました。

歳入確保への努力も 住宅使用料、給食費、町民税などの一般会計の歳入については、きちんと納入してもらうための努力、滞納を減らすための努力をすべきです。同時に役場旧庁舎内の備品の売却のほか、交換した水道の計量器など細かい有価物でも、極力収入につなげるよう訴える意見もありました。

前ページより続く

必要な事業の見直し 私たちが家庭の家計を考える時、収入に限りがあれば支出を減らそうとします。どこをどう減らすかは知恵のしほりどころです。町の財政を考える場合も、一つ一つの事業を細部にわたるまで見直す作業こそが重要だと思います。無駄のない効率的な運営をこれからも求めていきます。

3月18日、国土交通省と全日空を訪問

年明けの航空運賃の値上げ報道には誰もがびっくりしたことでしょう。島の経済、観光、医療への影響は計り知れないので、14人の議員全員が町長とともに国交省の太田大臣を訪ね、離島航空路への支援を要望しました。

同日午後、同じメンバーで全日空本社を訪ね、常務ほか3人の担当者に会いました。突然の運賃改定に対して、今後は町と全日空がいつも話し合える関係を維持してほしいこと、観光客誘致策を提案してほしいこと、離島の生活にとって唯一の交通手段であることの重要性を理解してほしいことなどを訴えてきました。

5月10日には国交省訪問に尽力してくれた公明党の都議会議員が来島し、その後の経過を説明してくれました。現時点では国による航空路支援の可能性は低いが、東京都へ支援を求める努力は今後もしていきたいとのことでした。今後も一丸となって要望していかなければなりません。

認知症にならないためには

4月26日(土)、八丈島老人クラブ連合会主催の八丈町島民公開セミナーが、多目的ホールで開催されました。

医薬分業による薬剤師のかかわり 医薬分業の長所として最も重要視されたのが、「お薬手帳」でした。病院では薬の説明書と薬を渡されるだけでしたが、「お薬手帳」では薬の内容と処方記録が残るので誰が見てもはっきり処方歴がわかります。処方料が少しアップするなど多少の負担はあるものの、安心感が増すという点で患者にとっての利便性は向上するはずで、町が4月からスタートした院外処方が利用者にとってこれまでよりも便利なものになるよう、町に望んでいきたいと思えます。



物忘れの最新医療 「加齢による物忘れ」と「認知症」のわかりやすい見分け方が示されました。また糖尿病などの危険因子を防ぎ、運動とバランスのとれた食事の必要性が強調されました。軽度認知症の進行を防ぐ方法も紹介されました。八丈町には認知症対応のデイサービスが養和会と「花」の2か所で実施されてきましたが、この春さらに「すみれ」が開所しサービスが充実してきました。認知症はこれからますます増えていくことが予想されます。家族が早めに気づくこと、気軽に相談することが第一歩だと感じました。介護する側の体力的、精神的負担は計り知れません。町が家族を支えるための独自策を打ち出すことは差し迫った課題です。



2014年3月議会 一般質問



1. 空き公共施設の利活用を

20年ほど前から人口減少が急速に進み、町にあった公共機関は閉鎖や統合、撤退を余儀なくされてきました。使われなくなった公共施設をそのまましておけば、景観上また防災上も問題になってきます。町にとって有用であれば改修して利用し、利用不可能であれば、速やかに処理する判断が必要でしょう。その場合も、どれくらい予算がかかるのか、何年までに着手するのか、財源はどうするのかも整理し計画しておくべきだと思いますので、次の項目についてうかがいます。

(1)島内にある空き公共施設のリストを。(2)人口減少対策に利用を。(3)末吉小学校跡地の利用状況と今後の見通しについて。(4)旧役場の庁舎跡地利用の具体策は。

町 (1)安全管理上、また町で有効活用できるかどうかを判断する上でも、リストアップは必要と考える。(2)公共施設は都所有や国有があり、売却や無償譲渡が考えられるが、目的を明確にすることや、そのための交渉も必要となる。(3)去年は合宿所として試験的利用を実施したが、自治会との連携をはかりながら来年度の実績を検証した上で方向性を決めたい。(4)旧役場建物の取り壊しについては隣接する都道の拡幅工事が平成30年頃に予定されており、その時期がはっきりした上で総合的に考える。

再質問 (1)リスト作成の時期は。(2)人口を増やす対策が進んでいない。今求められているのは島に転居を希望する単身者用の住宅だ。(3)役場の取り壊しの時期と費用は。

町 (1)なるべく早く実施したい。(2)町は世帯向けの住宅を提供しているが、入居していない住宅は独身者も入居できるように要件を緩和している。(3)平成28年頃をめざしているが撤去費用が億単位になるので課題は多い。



2. 多目的ホールをめぐる、文化協会、運営委員会、町教育課の役割は

多目的ホールができ多くのイベントが開かれてきたが、主催者が町や民間など様々で、町、文化協会、運営委員会それぞれの委員や役割が重なるなど、わかりにくい。各組織の役割をはっきりさせ、わかりやすく、より住民に寄り添う組織にすべきだ。(1)町の役割はどのようなものか。(2)文化協会をどのように育てる考えか。(3)運営委員会は決定権を持つ組織にすべきではないか。

町 (2)文化協会は島の文化の牽引と振興を図ること。富士見公会堂の指定管理者にした。(3)運営委員会は事業を実施する機関で、参加する人で組織されるが、最終決定は町。

再質問 (1)町の役割は文化行政の方向性を決めること、予算化し補助金を出すこと。(2)協会への補助金はこれまでと変わりなく、組織を強化する力になっていない。(3)運営委員会はホールの料金設定やイベント企画をすべき。

町 (1)組織の役割を示すことも町の役割。(2)補助金は協会が行う事業に出すもの。(3)料金設定は町が行う。指定管理者をおくことは検討している。

3月議会 一般質疑

私の発言から

●**広尾病院に隣接する島民のための宿泊所** 島外の病院に入院した患者を看る離島の住民にとって低料金で利用できるのが感謝されているが、内装の老朽化が進んでいるので改善できないか。

町 東京都とのヒアリングの際、要望する。

●**資料館のトイレ** 歴史民俗資料館は島の重要な観光施設であるのに、入口が男女分かれていない。また玄関わきの壁の塗装がはがれている。

町 早急に対応する。改修の規模にもよるが、今年中に見積もりして改善する。

●**老人措置費** 2005年に国庫補助金から交付税に変わり、老人措置費は市町村にゆだねられるようになった。対象者は年々減って、待機者はいないのに同額なのは納得がいかない。適正人数は今の半数くらいではないかと思っている。一般財源である以上、他の重要な事業に使うべきなのでは。

町長 待機人員の見積もりが適正かどうかは調べるが、建物の老朽化を心配している。養護老人ホームの方向性を出すよう養和会と相談し、町としてきちんと方針を出すべきと考えている。

●**理科教育の充実と理科教材の購入** サイエンスクラブの表彰式があった。プレゼンテーションに必要な映像記録のためにビデオなどの教材を整備すべき。

町 理科教育の充実は必要と考えているので、補正予算で対応したい。

●**院外薬局** 院外薬局は3か所あるが、郵送してくれたり届けたりしてくれる薬局もある。そういう情報をまとめて利用者に渡すべきだ。

町 民間業者のサービスなので、町としてPRできる部分があれば行いたい。

●**末吉のポットホール** 観光スポットだが、観光協会の調査によれば500以上あることがわかり、ギネスへの登録を申請している。町は支援するか。

町 ギネス登録についても協力するし、今後も支援していく。

●**木材破砕機** 1400万円で購入するが目的はなにか。どれくらい小さくできるのか。そのまま燃料にできないか。

町 中之郷の埋め立て処分場で堆肥化を進めるために使う。25cmくらいに切断でき、繰り返し投入すればさらに小さくすることもできるが、燃料として使うことは今のところ考えていない。

編集後記

3期目の任期も残すところわずかになりました。これまで議会だよりの編集に委員として4年間かかわってきて、表紙がカラーになったほか、リード記事を導入し、一般質問以外の質疑を掲載するなど読みやすい紙面をめざしてきました。一般質問の動画配信も実現させました。新人議員3人と私、それに議会事務局の係長の5人が、それぞれ仕事を分担してきました。毎号、2回の編集会議では、率直な意見をぶつけ合いながら楽しい時間を過ごしました。議会の様子がみなさんに伝わっていればいいのですが。

さちこのニューズレター

第四五号 / 二〇一四年六月

編集発行 奥山幸子

イラスト 奥山幸子